

平成 27 年 11 月 25 日

報道各位

大井一丁目南第 1 地区市街地再開発組合
住友不動産株式会社

再開発が進む大井一丁目から、旧東海道品川宿へ 街なみ継承 ライオンがつなぐ文化のバトン 組合が歴史ある看板建築の移築、保存に協力

住友不動産株式会社が参画する「大井一丁目南第 1 地区第一種市街地再開発事業」を推進する再開発組合は、事業区域内にあった歴史ある看板建築の一部である“ライオンのレリーフ”を旧東海道品川宿にある外国人向け宿泊施設へ移築保存しましたので、お知らせします。

再開発組合は、「開発が進む事業区域内にある看板建築を保存したい」という品川区の意向を受け、“開発後も、地元根付いた文化は大切に継承していきたい”という思いのもと、移築に協力しました。



<レリーフ概要> 横幅 約 150 c m 高さ 約 50 c m

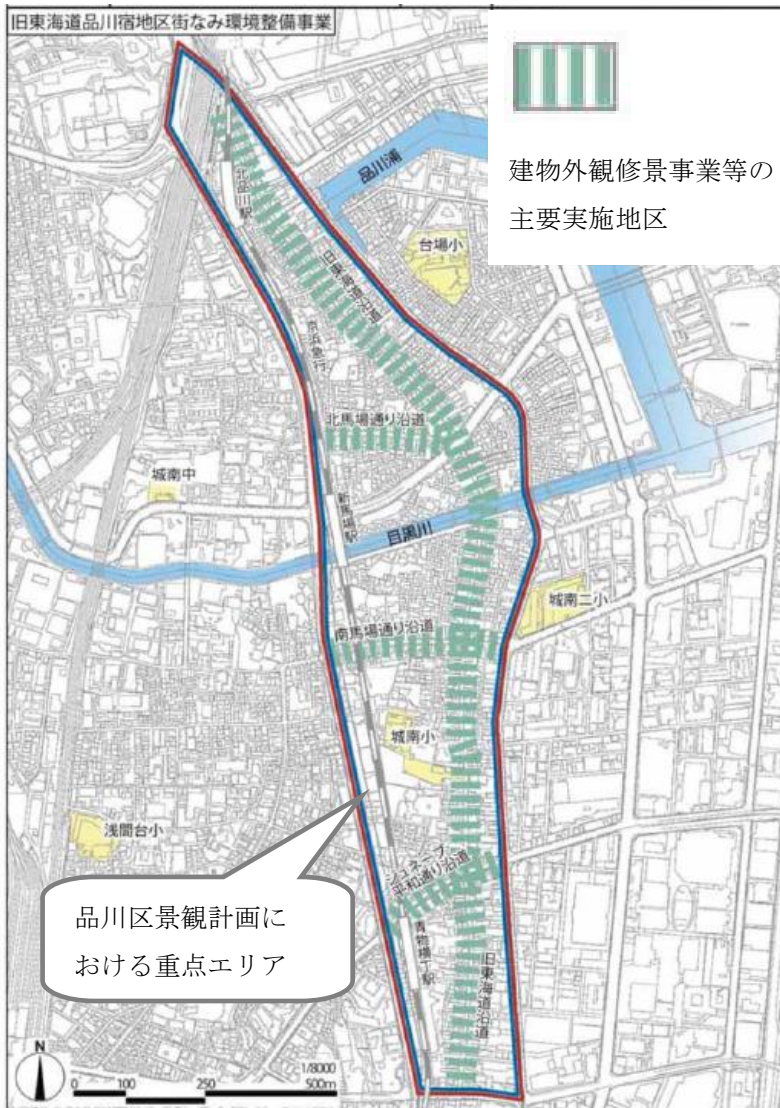
60 数年前板金職人の手により、「叩き出し」という技法を用いて一枚の銅板から作られた。



<旧東海道品川宿の街なみ>

【品川区の文化保存・継承の取り組み】

品川区は景観計画において、旧東海道品川宿周辺を重点地区に指定し、「旧東海道の歴史と文化を伝え、賑わいを創出する景観づくり」を目指しています。旧東海道にふさわしい街なみづくりに貢献する建物の修景に対して、工事費用の一部を補助するなど、積極的に文化の保存、継承に努めています。



【ライオンレリーの移築先】

旧東海道品川宿周辺では、品川宿周辺の町会、商店会等が協力し、昭和 63 年に設立されたまちづくり協議会を中心に、石畳舗装の提案や、松の植樹、お休み処の設置等の町を盛り上げ、保存していく活動が活発に行われています。

移築先は、昨年品川宿にオープンした古民家を改装した外国人向けの宿泊施設です。利用客に街の案内やルームサービスなどを行う等、まちと一体となったおもてなしにより、日本文化に触れることのできる施設として、人気があります。

約 60 数年前に誕生したライオンのレリーフは再開発により新しく生まれ変わる町での役目を終え、今後は、歴史ある旧東海道の宿場町で、観光客に日本の歴史を伝承するシンボルとして、新たな役割を担います。

【参考】

◆看板建築とは

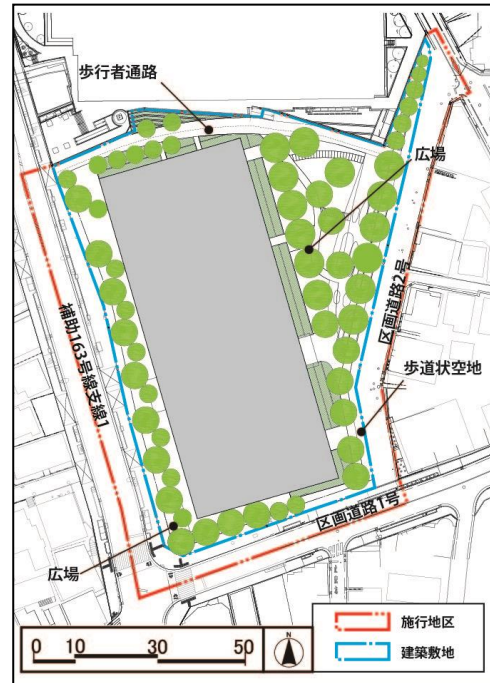
古くは関東大震災後に多く作られた表は洋風建築、裏は和風建築の店舗併用住宅のことを指します。建物の前面に衝立を置いたような看板を兼ねた外壁を持ち、その壁面があたかもキャンバスであるかのように自由な造形がなされているのが特徴です。

関東大震災後、第二次世界大戦後等に多く作られ、東京の下町の街並みを形成していましたが、今では各地に点在する程度です。現在は、江戸東京たてもの園にて、移築保存された看板建築を見ることができます。

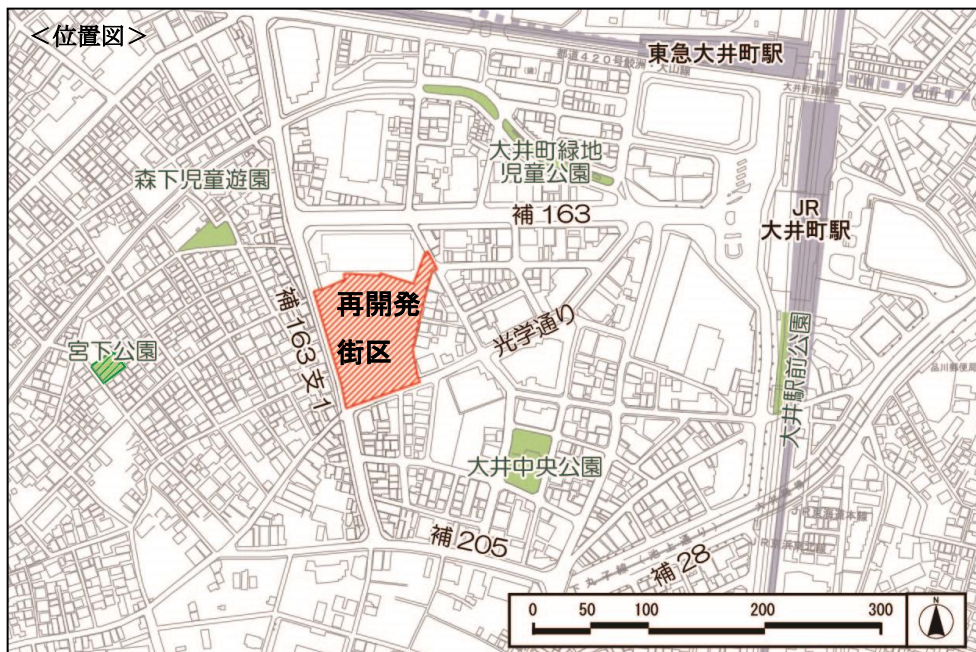
◆ 再開発事業の概要



<建物完成予想図>



<計画配置図>



- 【所在地】 東京都品川区大井一丁目地内
- 【地区面積】 施行地区約 0.8ha、敷地面積約 6,250 m²
- 【施設規模】 延床面積 約 60,900 m²
RC造・地上29階、地下2階建て・高さ約 104m
- 【施設用途】 住宅（約 650 戸）、生活支援施設、駐車場
- 【総事業費】 約 261 億円
- 【着工】 平成 28 年 7 月（予定）
- 【竣工】 平成 31 年（予定）

<本件に関する報道関係者からのお問い合わせ先>
住友不動産株式会社 広報課 担当：寺町
TEL 03-3346-1042